

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2570101473		
法人名	株式会社 ランガ・グード社		
事業所名	認知症高齢者グループホーム 楽日荘 1階 陽ユニット		
所在地	滋賀県大津市長等2丁目1-19		
自己評価作成日	令和4年1月13日	評価結果市町村受理日	令和4年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人 滋賀県社会福祉士会		
所在地	滋賀県草津市笠山7丁目8-138		
訪問調査日	令和4年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念である『楽日荘で楽しい日々を』を職員全員で日々の支援の中で実現できるよう心掛けている。利用者・家族とともにここで暮らしてよかったとおもっていただけるグループホームを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム楽日荘は、大津駅から徒歩10分の菱屋町商店街の一角にある2ユニット18名定員のグループホームである。周囲の景観に溶け込む町家風の外観で、1階には地域住民との交流スペースとしてカフェが併設されている。カフェに地域の方が訪れ、介護の悩みを相談に来られることもある。現在は感染症防止対策の為、以前のように交流が出来ないが、商店街を行き交う買い物客の空気が漂う環境である。職員はこのグループホームで利用者が、地域の一人として楽しい日々を過ごしてほしい、との思いを日々共有しながら支援している。勤続年数の長い職員が多く、働きながらキャリアアップしていける研修体制も整っている。利用者、家族の思いに沿って、医療連携の下、看取

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない (コロナのため)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない (コロナのため)				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「楽日荘で楽しい日々を」という理念を職員全員が意識して支援につなげている。	楽日荘で暮らす利用者に、地域の一員として、楽しい日々を過ごしてほしい、という願いで作られた理念である。理念を各ユニットに額に入れ掲示し、月1回の社内会議では唱和し、振り返り確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	商店街のイベントや地区の祭りなどにも出掛けていたが、コロナ禍のため外出を自粛している。	コロナ前は商店街の祭りやイベントに参加していたが、感染防止対策により、中止となっている。長くこの地域で暮らす利用者が多く、商店街の人が気にかけてくれている。家族や親戚が近くに住む等、地域のつながりが深くある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームページでの情報公開や運営推進会議などで情報を共有している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の取り組みや様子などを報告し、意見や提案をサービス向上に活かしている。	運営推進会議には地域包括職員、民生委員、家族会代表者が出席する。以前は皆が参加しやすい夜の時間帯に集まっていたが、感染症対策により、書面でのやりとりに代える等している。	現在、ボランティアの受け入れを休止している。感染防止対策を取りながら地域の方と交流が出来るように、運営推進会議で、検討されることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が必要に応じて連絡を取り、相談をしたり助言を受ける等で協力関係を築いている。	市の介護保険担当課や地域包括へ困りごとを相談している。また、地域の方から寄せられた介護の困りごとへの相談を、事業所に対応できない時には、包括に相談し行政に繋ぐこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット会議や社内会議などで身体拘束をしないケアを話し合い職員全員で取り組んでいる。	身体拘束自体はない。日々のケア中の転倒等のアクシデントについては、アクシデント報告書に事実と考察、今後の注意点を記録し職員で確認し共有している。身体拘束適正化検討委員会を3か月に1回開催し、そこでの検討事項を月1回の職員会議で全職員が共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を行っている。「虐待の芽チェックリスト」を用いて意識のチェックを行い、虐待をしない援助を周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修などに参加し、得た知識を社内会議などで報告している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族に理解してもらえるよう、管理者やユニットリーダーから説明している。電話や文書でも説明し、納得・理解してもらえるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の会話から利用者の要望を確認し、家族には面会時や電話にて意見や要望を聞き、会議等で全職員が周知するよう努めている。	感染症防止対策により、リモート面会となっており、家族とは、お便りや、電話でやりとりをしている。ホームページにパスワードを入力し家族のみが利用者の写真を見ることができる「ご家族写真館」を設けている。また、ブログに日々の様子を発信し、家族からの反響は好評である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	社内会議やユニット会議で意見交換の場を設けるようにしている。	各ユニットの日誌に職員が意見を書き込むようにしている。職員から、利用者のケアに関する意見があり、そのつどユニットで話し合い、取り入れている。また、季節行事や企画等の職員からの提案やアイデアは積極的に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議などで意見交換の場を設けたり、日々の話し合いからも職員の意見を聞き、環境改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員のケアレベルを把握し、研修や勉強会に参加する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会や外部研修を通じ交流・意見交換、情報交換をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と話をしたり、家族からも情報を得たりして不安や要望を聞き、安心していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスについての説明時に、意向や要望を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の希望や要望を考慮しつつ、職員全員の意見を聞きプランを作成するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来ることは負担のない範囲でしてもらい、出来ないことは支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人が安心して生活できるよう、家族と一緒に相談し、生活していただけるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方々にも協力してもらい可能なら行事に参加できるよう支援している。(現在はコロナ禍のため控えている)	コロナ禍において、近所の人や友人と面会する機会を模索しているが、難しい。病院受診時に商店街を歩くと馴染みの景色を懐かしまれる。関係性が途切れないように、写真を添えて手紙を送る、電話をかける等工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、利用者同士の関係が良好に保てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて本人や家族の相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から話を聞き、希望や意向を把握し。意思を伝えるのが困難な場合は表情や日々の生活からくみ取れるよう努力している。	入居時に、利用者の以前の職業や好きだったことを聞き取りをしている。食事の時や隙間時間の何気ない会話から思いを把握している。ADLが低下し会話が難しくなっている人については、以前のその人の暮らしや習慣、好きだったことを想像するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から情報を集め、職員間で把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態や変化は、申し送りや日常生活の中で職員間で情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に即した介護計画を立て、見直しもしている。	各ユニットで3か月に1回カンファレンスを行い、計画の見直しをしている。状況変化があれば、つどプランの見直しを行う。書類は郵送し返事をもらうが家族からの意見は書いてくれる人、と特にはないという人がいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき、ケアの実践を個別記録に記入し、情報共有しケアの見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援やサービスの充実につなげられるよう努力している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナによる外出自粛、また感染予防のため現在では地域資源の活用は出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回看護師による訪問、月に2回医師による往診がある。受診が必要な場合には、個別に対応している。	提携する嘱託医の往診を月2回受けている。月1回歯科の往診もあり、必要に応じ歯科衛生士による口腔ケアを実施している。訪問看護師は週1回の訪問で、利用者の健康を管理している。実費で訪問リハビリを利用する人もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者に体調の変化があれば連絡をして適切な指示を受けている。気になることがあれば、看護師の訪問時に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	可能な場合は入院中の利用者を見舞ったり、退院前のカンファレンスに参加し、看護師、全職員が情報を把握するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療関係者と家族、職員と話し合い終末期の支援について共有している。対応に変更などあれば連絡や報告をしている。	看取り介護の実績はこれまでに何名も有り、殆ど全職員が看取りを経験している。入居時に、重度化対応及び終末期ケア対応指針について説明し、時期が来たら再度ドクターが説明し、確認をしている。終末期は往診や訪問看護の頻度を増やし、医療連携を密に対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応についてまとめられている。医師や看護師から指示を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導により、職員全員化訓練に参加している。避難経路は見える場所に掲示している。	火災を想定し避難訓練を実施しているが、コロナ禍により消防署に来てもらうことが難しくなっている。施設は耐火建築でスプリンクラー等を実施し、水や防災グッズをユニットごとに備蓄している。出入り口が玄関にしかないため、状況によっては、外に出るよりは中にいる方が安全である。	災害や感染症が発生した時でも業務を継続し、必要な介護サービスを提供することのできる体制づくりについて検討していただきたい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し、個人に合わせた対応や言葉かけをするよう努力している。	「虐待の芽チェックリスト」を活用し、声かけをする時利用者に威圧感を与えていないか、スピーチロックをしていないか等、15項目を全職員が半年に1回、振り返り確認している。また、ブログに写真を掲載する時には、事前に家族の許可を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話や行動から本人の希望に気づくよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気分に合わせて、本人のペースで生活ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容でヘアセットをしてもらうなど身だしなみを整える支援をしている。服装は、自分で選べる人には選んでもらっている。全利用者季節に合った服装を用意している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けができる利用者には、職員と一緒に盛り付けや配膳下膳をしている。	メニューは各ユニットで当日に決めている。食事形態は個々に合わせ対応している。箸、湯のみ・茶碗は個別に用意している。フェイスシールドをし、職員が介助しながら一緒に食事をしている。時にはお弁当やお寿司を取る等コロナ禍でも食事を楽しむ工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録している。個人に合わせた量や形態で食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人の口腔状態に応じた口腔ケアを行っている。週1回訪問歯科による口腔ケアを受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間帯を決めトイレ誘導を行い、訴えなどある場合はそれに応じて支援する。	排泄が自立している人は各ユニットに1人である。日誌に記録し、排泄パターンを把握し、声掛け誘導している。また、利用者の尿量によりリハビリパンツを使い分けている。下剤を服用している人も多く、腹部マッサージや水分摂取を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの状況に応じて、薬での調整やそれぞれの対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日、時間帯は決まっていないが入浴の声掛けをし、少しでも気持ちよく楽しんでもらえるよう支援している。	入浴は基本午後の時間帯であるが、介助が必要でない人は午前中に入ってもらっている。週2回以上入浴が出来るようにしている。シャワー浴の人もある。入浴が苦手な人、億劫な人にはその人のタイミングに合わせ声かけを行っている。脱衣場には冷暖房機器設置等ヒートショックに配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり生活リズムに合わせ支援し、体調が優れない時などは時間調整をし居室で休んでもらう。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	セットする際と服用時はしっかり(日付、名前、服用するタイミング)を確認し、口の中に入るまで見守り支援する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合わせたぬり絵や計算など退屈時間を減らし気分転換できるよう支援する。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染症のため外出はできていない。	以前は地域の行事に参加していた。昨年の春、少人数に分散し花見に行った。コロナ禍の現在は窓辺で外気浴や日なたぼっこ、室内に季節の花を飾る等、中にいても外の雰囲気を楽しめるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の要望や能力、ニーズに応じて買い物ができるように支援しているが、コロナ禍のため買い物に出掛けることは控えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	荷物が届いた時などお礼の電話をしてもらったり、家族から電話があった時などゆっくり話せるようそばで見守り支援する。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は常にきれいで清潔にし、テレビ音や室温度、電気の光は利用者さんに合わせ調整している。	その月に合う飾りを職員が利用者と一緒に作り、窓や壁に飾っている。フロアの照明の明るさに気を付けている。ベランダは段差がなく、車いす利用の利用者に水やりをしてもらうことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にゆったりできるソファを設置し、1人の時間を過ごしたり利用者同士で会話できるようにする。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりぬり絵をしたカレンダーなど飾り、明るく心地よい居室になるよう工夫している。	ダンスや衣装ケース等それぞれが使い慣れたものを持ち込めるようにしている。居室に写真や作品等好みのものを飾っている人もいる。また、エアコンの温度管理はスタッフがやっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースではトイレの場所など分かりやすいよう掲示したり、居室では一人ひとりに合わせた手すりの配置になるよう工夫している。		

事業所名：認知症高齢者グループホーム楽日荘 陽ユニット

作成日：令和4年 1月 13日

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成 に要する 期間
1	38	利用者の半数以上が高齢などの理由により何らかの介助が必要となってきた	利用者一人ひとりの自立支援を大事に行いながら、安全面にも十分配慮を行う	残存機能を活かした支援を行い、現在の状態を維持できるようにする。過剰な介助にならないよう、状況に応じた対応を行っていく	12ヶ月
2	48・49	コロナの影響で外出が困難となっており、季節を感じられにくい状況が続いている	それぞれの季節の変化や行事を楽しんでもらえる機会をつくり、生活にメリハリをつける	季節感のある飾りや植物などを良く見える位置に飾り、今はどの季節なのかをわかりやすくする。季節ごとの行事、旬の食材の提供を行う	12ヶ月
3	25	必要な介助がこれまでよりも増えてきたことで、利用者一人ひとりとのコミュニケーションが減らないよう一人ひとりの時間を大事にする	介助を行う中でも利用者からの発言の傾聴や表情から想いに気づき、より良いケアの改善につないでいく	利用者からの発言や様子、変化など全スタッフで共有し、改善点、維持していくことをしっかり把握し、日々の生活に活かしていく	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

3 サービス評価の実施と活用状況

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】		
実施段階		取 り 組 ん だ 内 容 (↓ 該当するものすべてに○印)
1	サービス評価の事前準備	○ ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		②利用者へサービス評価について説明した
		③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
		⑤その他()
2	自己評価の実施	○ ①自己評価を職員全員が実施した
		②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		⑤その他()
3	外部評価(訪問調査当日)	①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		④その他()
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		⑤その他()
5	サービス評価の活用	①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
		③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
		④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
		⑤その他()